

JASDAQ

銘柄略称: ACKG

証券コード: 2498

2012年9月期 第2四半期 決算説明会

2012年5月31日

代表取締役社長 廣谷 彰彦

 株式会社
ACKグループ



プレゼンテーション・アウトライン

本日のポイント

- : ACKグループのご紹介
- : 2012年9月期 期首経営改革の計画と実績
- : 2012年9月期 第2四半期業績ハイライト
- : 2012年9月期 下期経営施策と通期業績見通し
- : 将来に向けた更なる改革
- : 質疑応答

APPENDICES

- 主要トピックス、連結決算詳細

本日のポイント

1

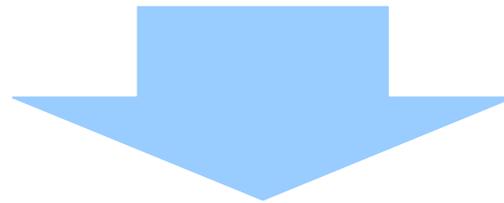
経営改革は着実に進展

経営改革の実行

合理化

事業拡大

新分野の開拓



業績回復、新たな成長を目指して、
経営改革を強力に推進

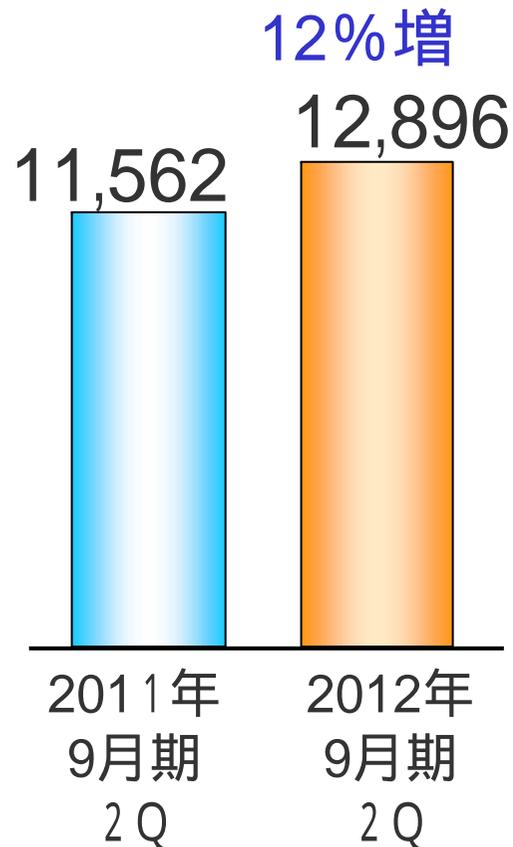
本日のポイント

2

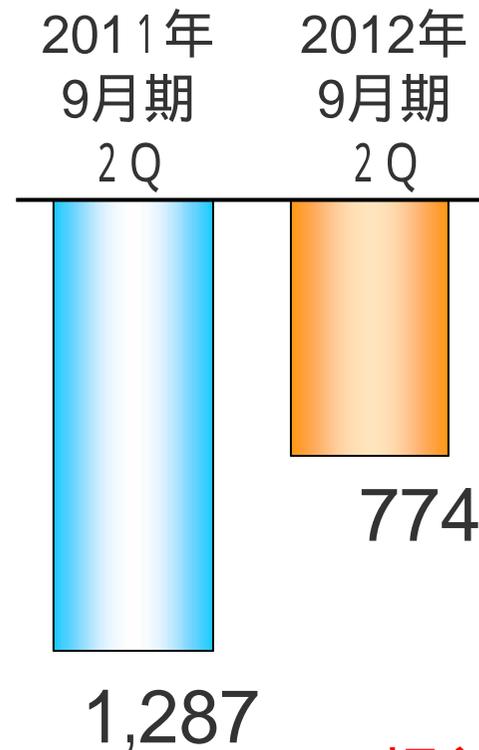
業績は前期から大きく好転

(前期から大幅な増収、増益により計画値を達成)

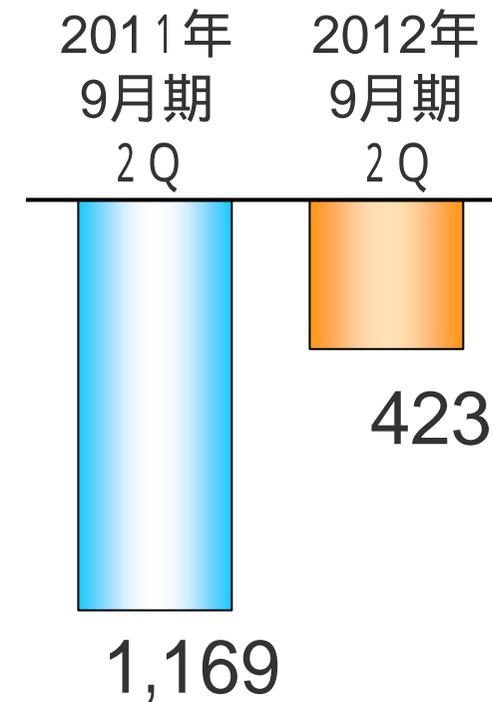
< 売上高 >



< 営業利益 >

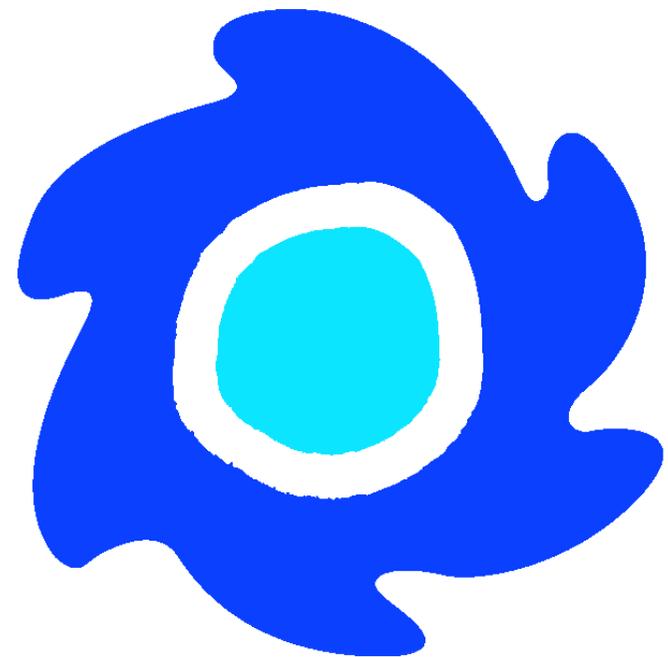


< 純利益 > 単位:百万円



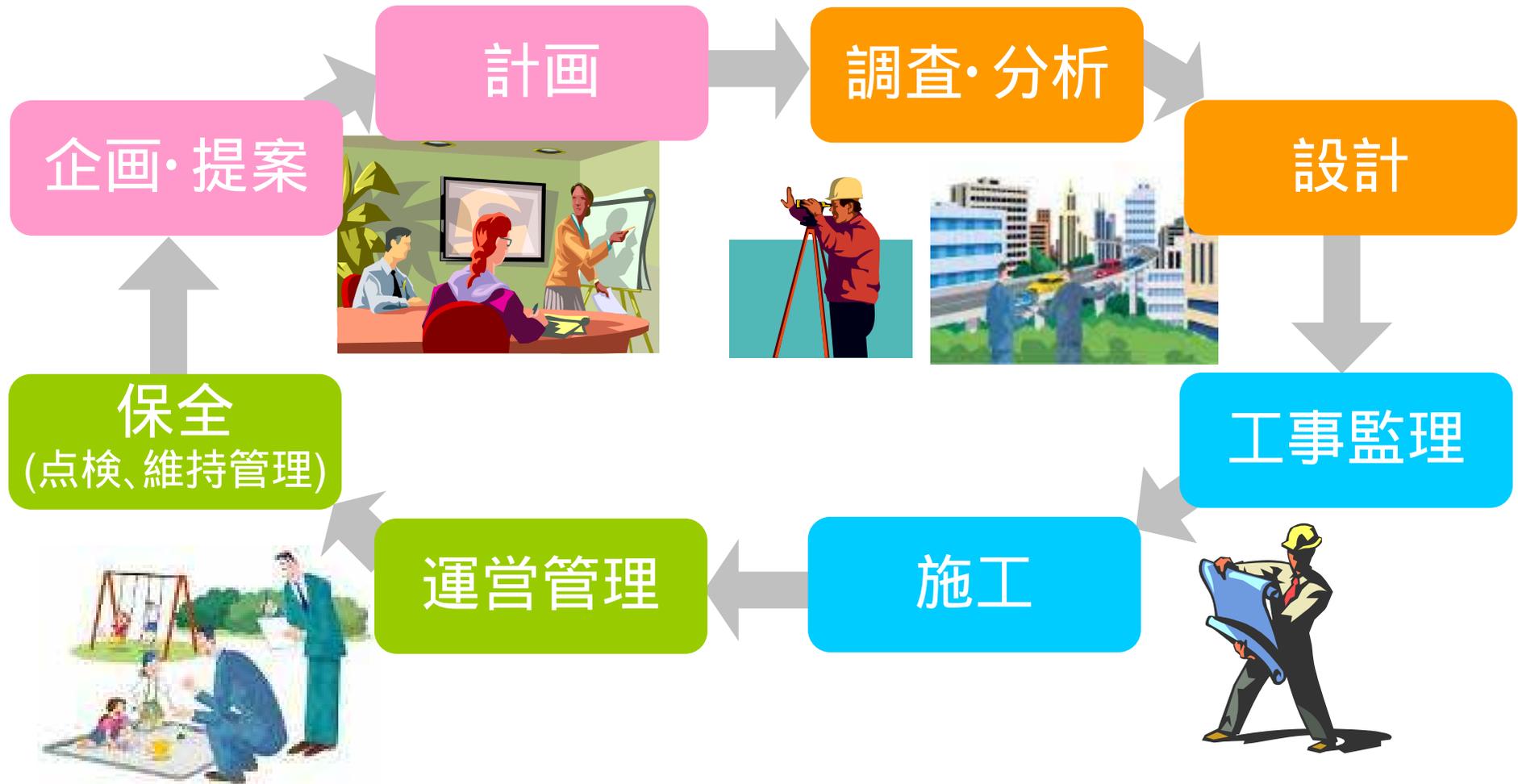
損益は大幅に改善

: A C Kグループのご紹介



ACKグループ各企業の提供するサービス

インフラ施設等を中心に、多種多様なサービスについて、個別のみならず一括(ワンストップ)でも提供します



ACKグループの主な活動フィールド

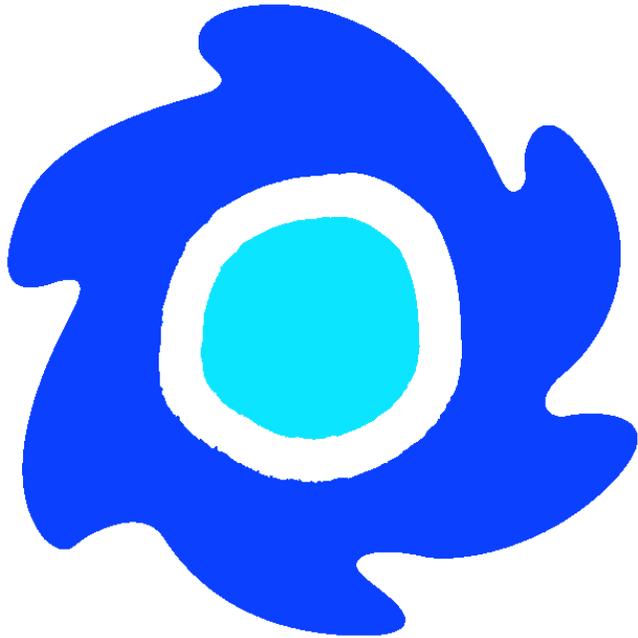
世界の人々の生活や産業を支えるあらゆるものを対象にアイデア・技術を提供し、それらの実現までサポートします



ACKグループが対象とする活動フィールド(抜粋のみ)のイメージ

ACKグループの理念

私たちACKグループは、
社会の安全・安心・豊かさを追及します。



【ロゴマークの意味】

「知」を核とし、
決まった型にはまらず、
時代の変化に応じて、
自由に業容を変えながら
仲間を募り広がっていく。

< 使命 (ミッション) >

- ・「世界の人々の豊かなくらしと夢の創造」
～ サービス領域無限大へのチャレンジ～

グループ会社の紹介

多様な専門技術を保有している当社のグループ各企業は、経営の効率化、体制強化等を図り、5社で運営しています

会社名	創立	主な技術サービス・商品
(株)オリエンタルコンサルタンツ	1957年	交通・都市・地域・環境・構造・防災・プロジェクトマネジメント など
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	1962年	地質・土質・地盤、調査・構造、さく井、地下水、建造物解体、施工 など
(株)エイテック	1968年	建設・交通に関する調査・設計・監理・測量・計器類 など
(株)中央設計技術研究所	1947年	上下水道・廃棄物・環境の調査・計画・設計・施工管理 など
(株)リサーチアンドソリューション	1978年	ソフトウェア開発・販売、間接業務、人材マネジメント など

: 2012年9月期
期首経営改革の計画と実績



経営改革の概要

■業績回復、新たな成長を目指し、経営改革を断行

< 経営改革の視点 >

合理化

- ・コスト縮減、組織のコンパクト化等

事業拡大

- ・シナジー強化、事業推進体制強化等

新分野の開拓

- ・国内外の民間事業の更なる拡大等

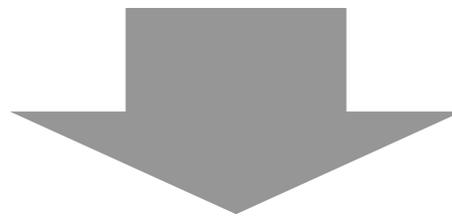
合理化施策

- 合理化施策実施により、当期損益が前期から大きく改善

事務所拠点戦略の見直し

ACKグループにおける組織のコンパクト化

グループ全体の経費削減施策の強化 等



効果：当期末には約3億円削減(前期比)の見込み

事業拡大(シナジー強化)

■シナジー強化(事業会社合併)により国内民間受注が増加

事業会社の合併

大成基礎設計(株)

(株)アサノ建工

H23.12.1設立

(株)アサノ大成基礎
エンジニアリング

吉井システムリサーチ(株)

(株)オリエスシェアードサービス

H23.10.1設立

(株)リサーチアンド
ソリューション

効果: 国内民間受注が約1.4倍に増加



国内民間受注事例

「工場・大規模利用施設への水供給サービス」を提供
東日本大震災を契機として、非常用2次水源の確保ニーズ
が急激に拡大する中、東北地方に生産拠点を置く企業より、
深井戸5本からなる井戸掘削工事の業務を受注



株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング

井戸掘削工事の概要

- ・災害発生時に事業を継続するための水源を確保
- ・計画・設計・施工・維持管理までをワンストップで対応



井戸掘削工事の様子

事業拡大(東北地方の体制強化)

■東北地方の復旧・復興支援体制の強化による受注増加

(株)オリエンタルコンサルタンツ東北支店や震災復興推進室、(株)アサノ大成基礎エンジニアリング東北支社の人員増員等による体制の強化
 (株)エイテックにおける東北支店の設置 等



効果：震災復興関連の調査や設計業務の受注が増加
 今後も東北地方の復興に貢献すべく活動を推進



新分野の開拓

海外民間を中心とした新分野事業を強力に推進

< 実行施策 >

- ・ACKグループに「成長戦略事業準備室」をH23.10.1から設置
- ・「(株)InterAct」をパシフィックコンサルタンツグループ株式会社と共同してH24.3.1に設立

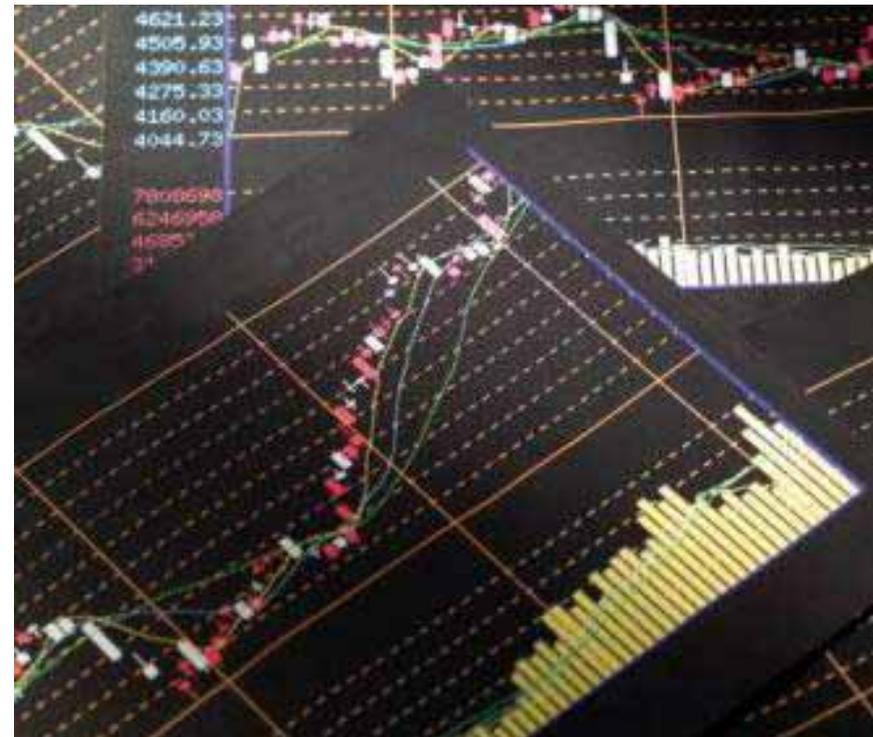


H24.3.1(木) 記者発表風景

【効果】

「パッケージ型インフラ海外展開」に向けた体制が強化
国内外(主に海外)の民間企業等が参画する事業への
各種コンサルティングや運営又は参画を促進

: 2012年9月期
第2四半期 業績ハイライト



連結受注高

受注高は増加、前期比で168百万(1.0%)増

- 国内公共は、震災復興関連受注等により前期を上回る
- 国内民間は、再開発関連事業等の受注好調により大きく増加
- 受注残高も大幅に増加しており、今後の売上に貢献

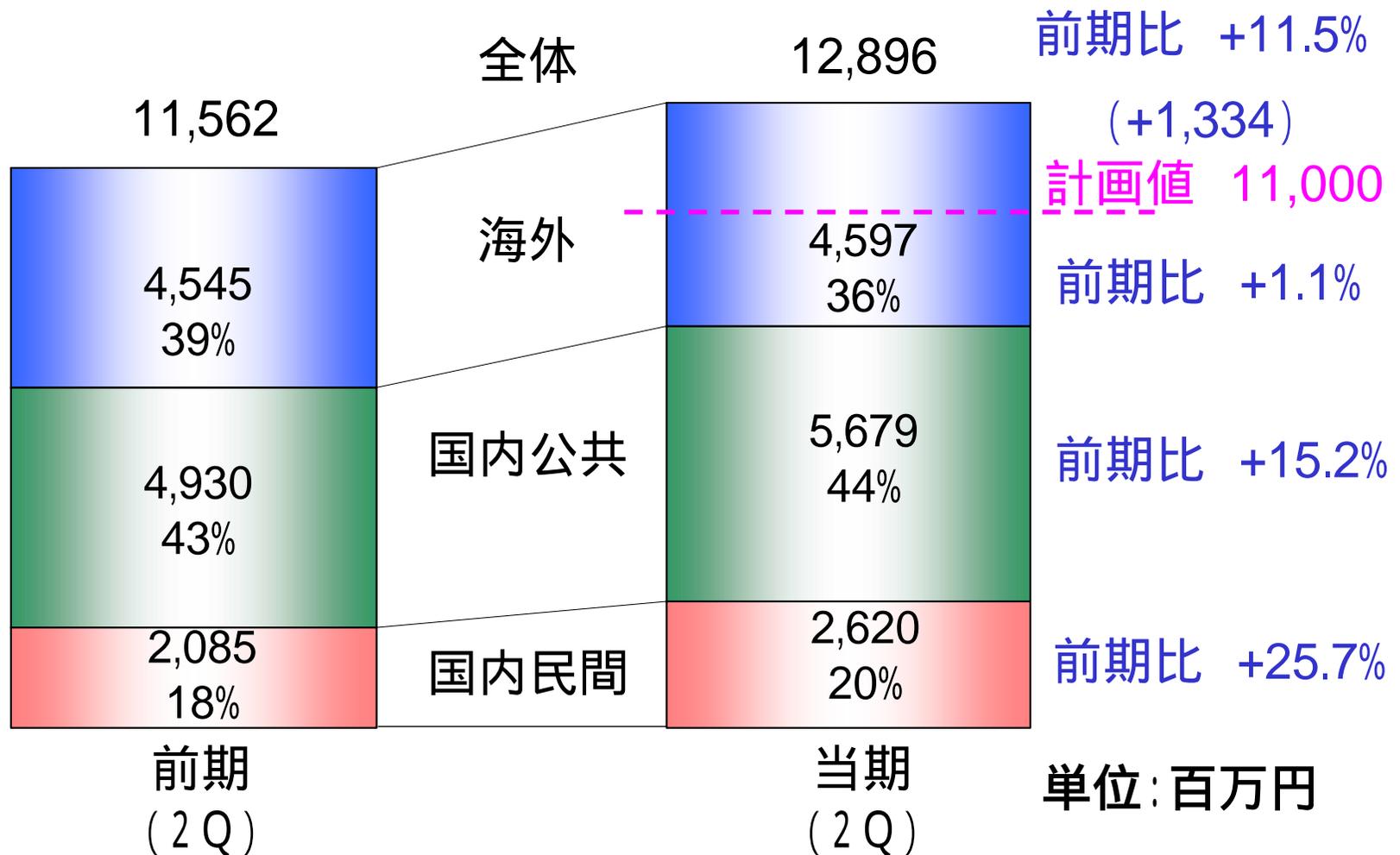
(百万円)

	前期 (2Q)	当期 (2Q)	増減	計画値
受注高	16,069	16,237	+168 (+1.0%)	-
受注残高	30,511	34,353	+3,842 (+12.6%)	-

受注済で生産中の契約総額

連結売上高

売上高は増加、前期比で1,334百万(11.5%)増
国内事業は公共、民間とも前期から売上高が大きく増加



連結損益(利益)

損益は計画値を達成、また前期から大幅に改善

- 損益は、拠点戦略見直しなど合理化施策の実施や、売上高増加による原価率改善等により、前期から大幅に改善

(百万円)

	前期 (2Q)	当期 (2Q)	増減	計画値
営業利益	1,287	774	↑ +513 (-)	900
経常利益	1,278	725	↑ +553 (-)	950
当期純利益	1,169	423	↑ +746 (-)	650

年間の業績推移の特性について(参考情報)

年度前半は、赤字を計上する傾向 (業界全般の傾向)

- 売上の累計が経費累計を超えるのが、第4四半期になる傾向、業務完了後に一括で支払いされることによる業界的な構造
- 生産活動費用は、入金以前に発生
- 販売管理費は、年間で平均的に発生

売上・費用の累計と、営業利益のイメージ図



: 2012年9月期
下期経営施策と通期業績見通し



下期の経営改革

■下期も経営改革を継続して推進し、経営基盤を更に強化

合理化 コスト体質向上

- ・経費削減、売上原価低減策の継続実施等

事業拡大 投資により事業拡大を加速

- ・事業推進テーマへの更なる投資、海外拠点の強化等

新分野の開拓 国内外民間事業の開拓を促進

- ・国内民間事業における開拓、拡大の継続実施等

下期の施策(シナジー強化等)

■シナジー強化の継続実施等により受注を拡大

シナジー強化(事業会社合併)の継続実施
国内民間事業における受注拡大を継続 等

グループ内事業会社の連携促進(特に東北地方)
震災復興案件などの確実な受注 等

下期の施策(事業推進)

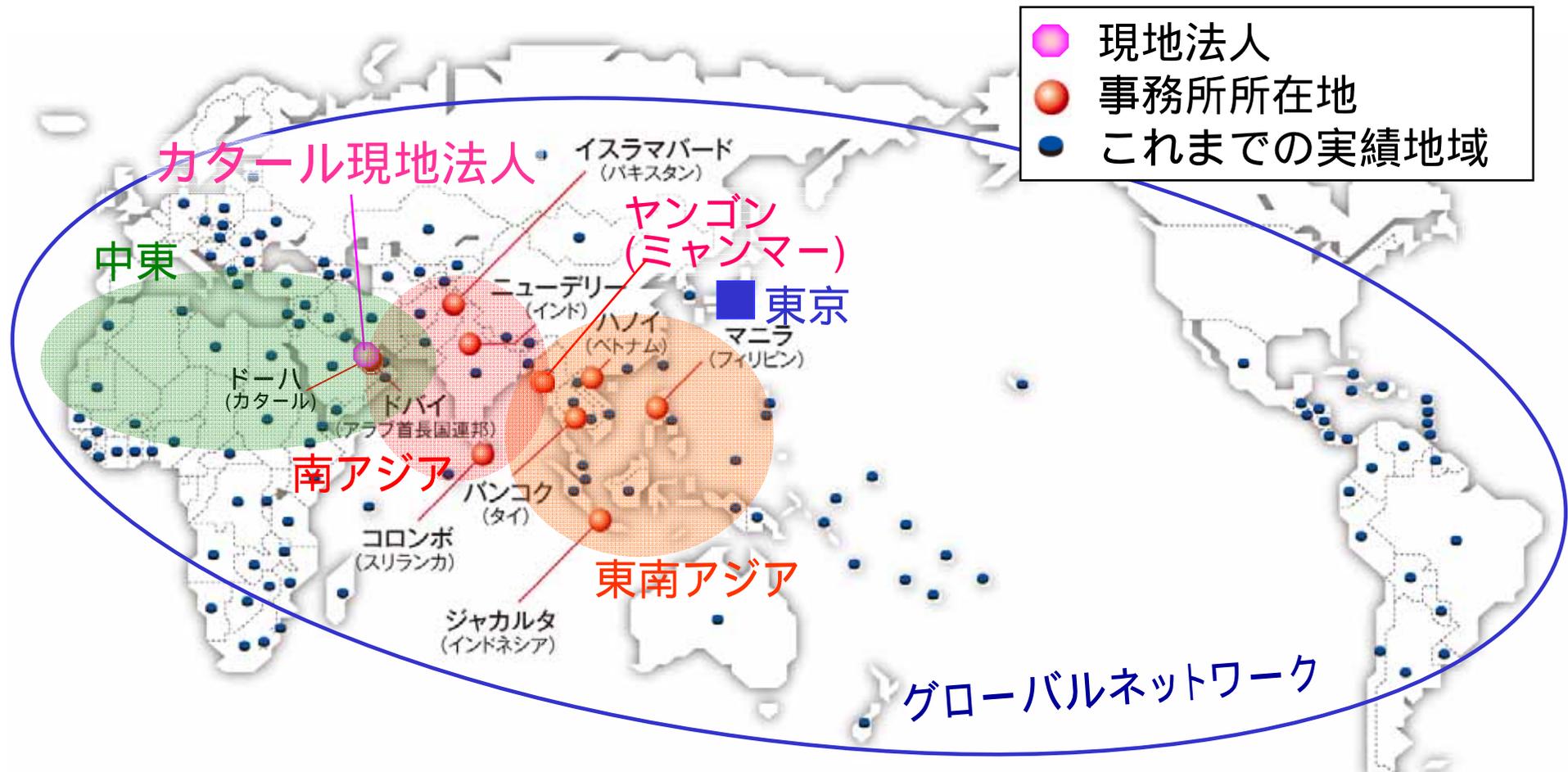
■各事業推進テーマへの更なる投資により事業拡大を加速

No.	事業推進テーマ
	再生可能エネルギー・スマートコミュニティ
	防災事業
	インフラ保全事業
	民間開発事業
	海外事業
	グループ全体IT基盤整備

下期の施策(海外拠点の強化)

■海外での事業拡大を目指すべく、海外拠点を強化

カタール現地法人の設立、他地域現地法人検討、事務所設置・強化等



2012年9月期通期業績見通し

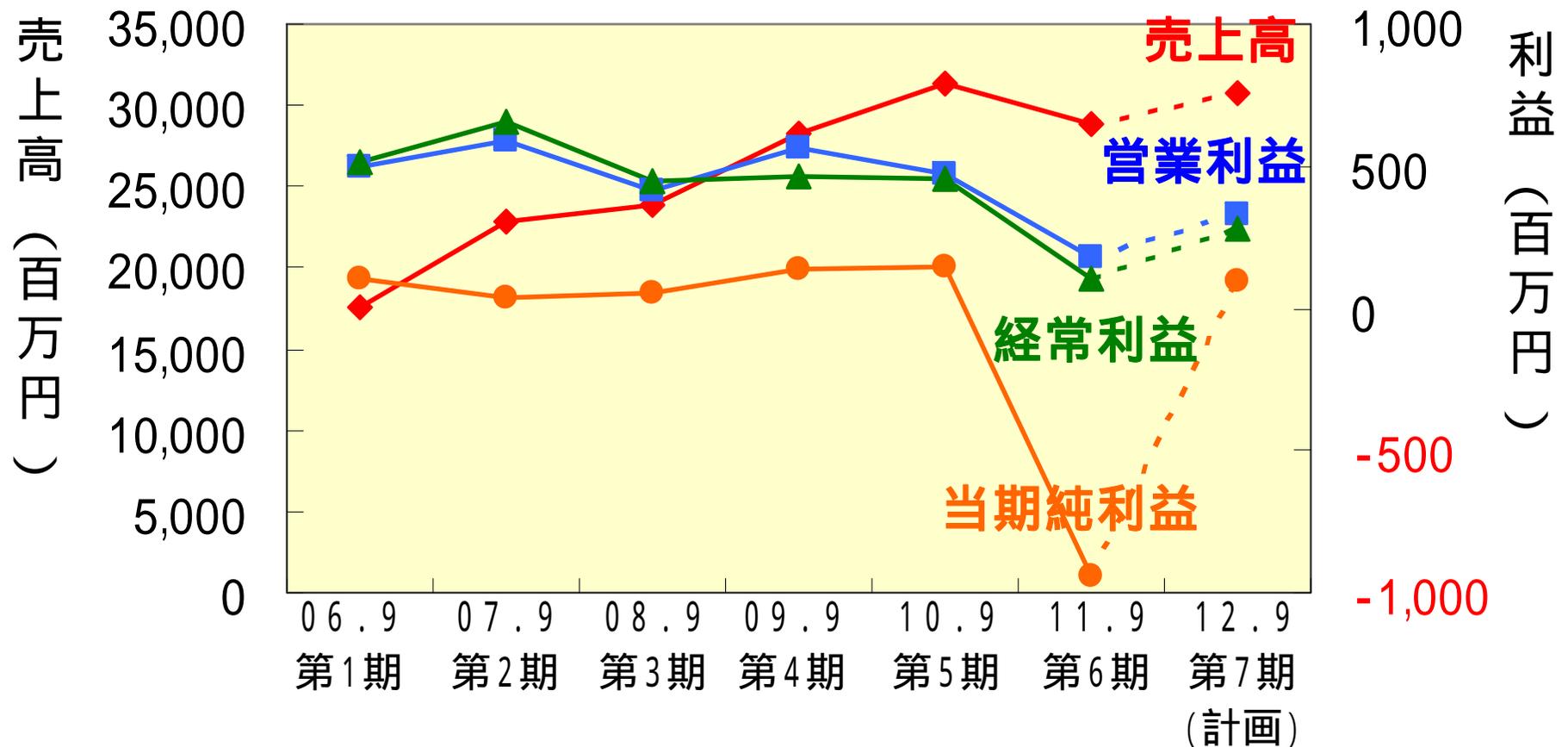
■経営改革の継続実施等により通期計画値は達成見込み

(百万円)

	2011/9月期 通期 実績値	2012/9月期 通期 計画値	増減
売上高	28,801	30,800	↑ +1,999 (+6.9%)
営業利益	176	330	↑ +154 (+87.5%)
経常利益	102	280	↑ +178 (+175%)
当期純利益	942	100	↑ +1,042 (-)

通期業績の推移

- 売上高：経営改革の継続実施等により売上高を回復
- 利益：改革による基盤強化等により利益を確保



: 将来に向けた更なる改革



ACKグループ新中期経営計画の策定

■事業環境を踏まえた新たな中期経営計画を策定中

< 新中期経営計画の概要 >

目的

- ・既往事業における技術の高度化
- ・事業主体として自らの投資を含めた社会インフラ事業へ参画

対象期間

- ・2012年10月～2015年9月の3ヵ年

策定状況

- ・2012年4月25日に骨子を発表

今後の予定

- ・2012年9月には新中期経営計画を策定・発表予定

ACKグループ新中期経営計画 骨子

「スローガン」と3つの「基本方針」を設定

< スローガン >

社会インフラ創造企業

・自らが社会を創造する担い手となる

- ・受動型ビジネスから主導型ビジネスへの転換
- ・自らが投資し、事業者としてインフラビジネスを推進

社会インフラとは、道路、河川、橋梁、鉄道、都市、建築物から電気、上下水道、ガス、電話など社会基盤を形成するものであり、施設、設備等の「ハード」と枠組み、IT等の「ソフト」を含む。

< 基本方針 >

強みの活用

交通運輸事業、海外事業の強みを活かし、グループの力を結集し、ワンストップで推進

育成と連携

国内外から人が集い、育ち、国内外シームレスな共同体の実現

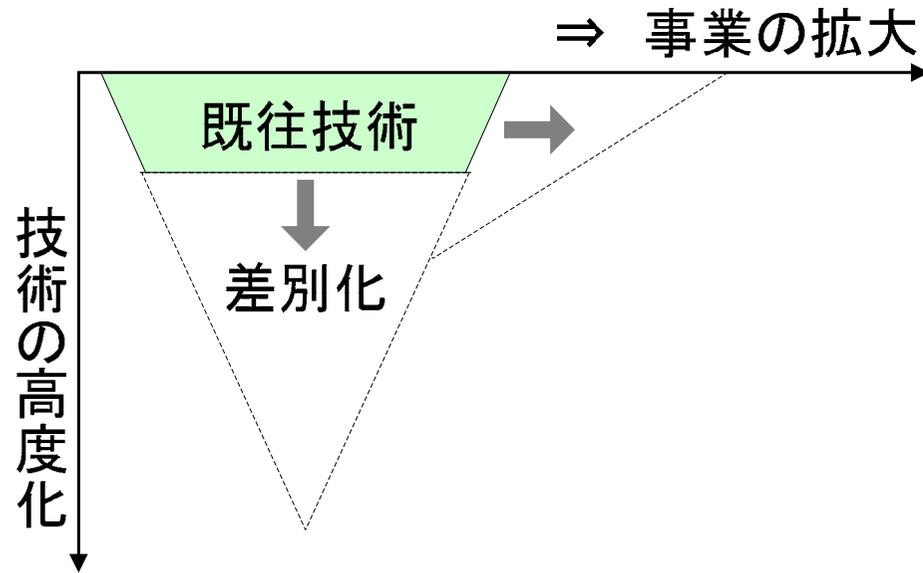
事業創造

「技術の深化」と「新たな事業創造」により、公共から民間へ、世界へ

事業拡大の方向性

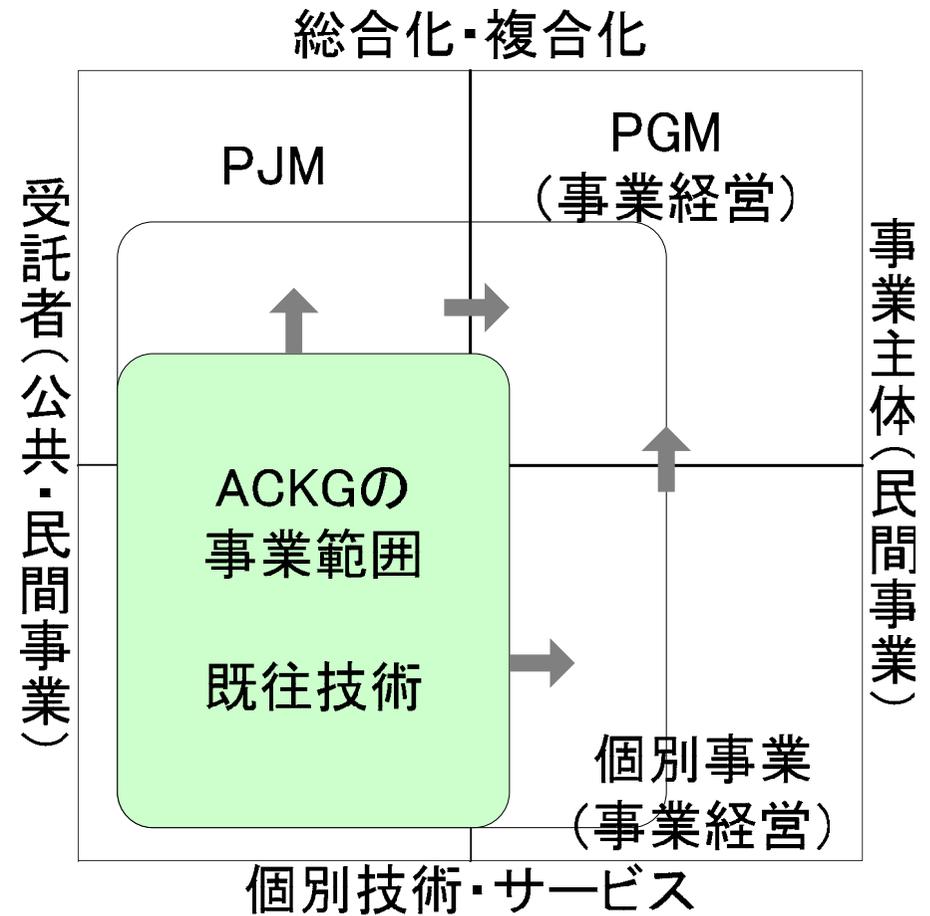
「技術の高度化」とプロジェクトマネジメントから事業経営へ

A 【受託-主体】・【個別-総合】軸



※受託者 : 発注者(公共・民間)からの委託を受け、業務を実施し対価を得る。

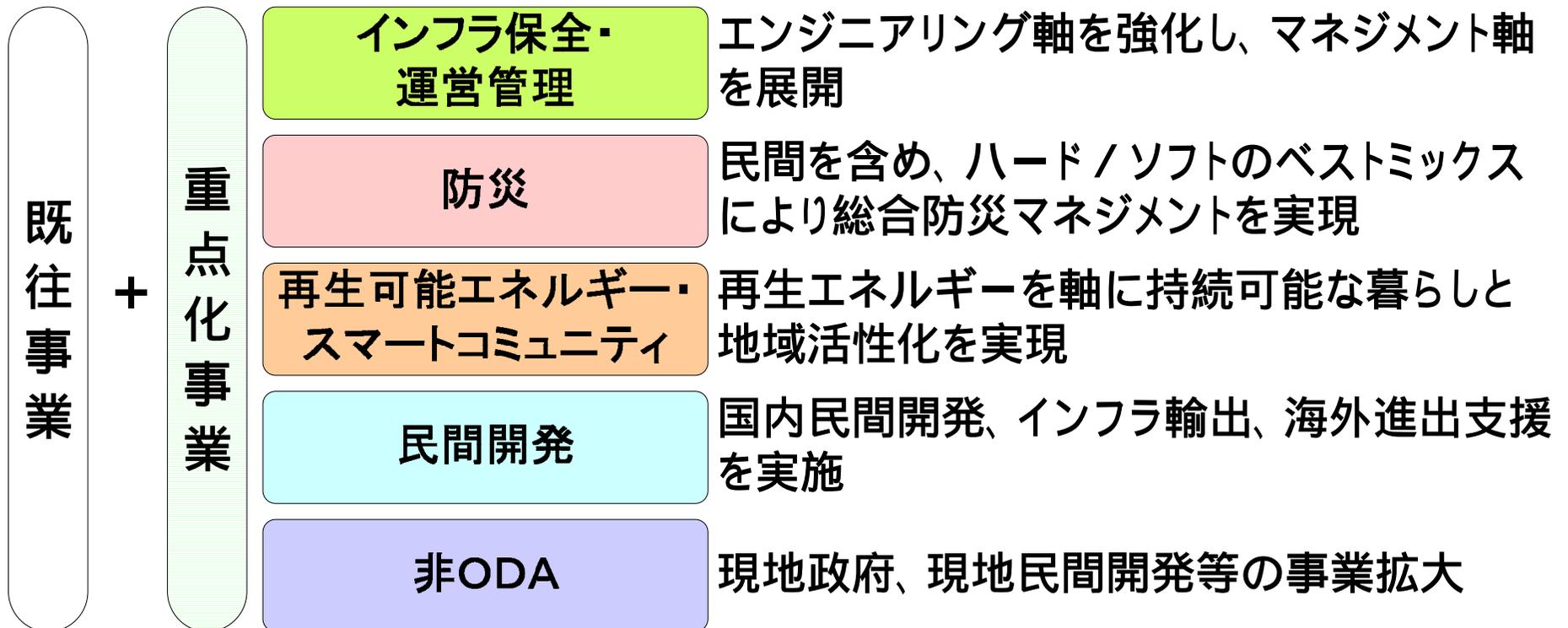
※事業主体 : 自らが資金調達し、サービスを提供することにより、利用者・購入者から料金を得る。



ACKグループにおける事業戦略

事業戦略として5つの重点化事業を推進

< 事業戦略 >



感じてますか 未来の鼓動

『世界の人々の豊かなくらしと夢の創造』を目指し、今の業容にとらわれずサービス領域の無限大へ今後もチャレンジし続けます！



本資料および本説明会の説明には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの記述が含まれております。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定に基づいており、将来における当社の実際の業績または展開と異なる可能性があります。

: 質疑応答



APPENDICES

- 主要トピックス -



主要トピックス(重点化事業取組事例)

「PPP(官民連携)」手法を活用した太陽光発電事業
(山梨県南アルプス市、飛鳥建設(株)殿等と4社JV(OCが代表者))

再生可能エネルギー・
スマートコミュニティ

公共施設2箇所の太陽光発電施設を整備
(H24.7.1より施設供用予定)

今後も、スマートコミュニティ構築や再生可能エネルギー導入によるモビリティ強化等
地域活性化などの検討や提案を実施予定



株式会社 **オリエンタルコンサルタンツ**
ORICONSUL

水ESCO事業 - 病院、スポーツ施設、食品工場

インフラ保全・
運営管理

水道料金の削減と災害時の非常用水
確保という2つの目的を実現

井戸掘削から自家水道システムの施工、
メンテナンスまで、まるごと対応

ESCO方式またはリース方式により、
初期費用ゼロで導入可能

* ESCO: Energy Service Companyの略



株式会社 **アサノ大成基礎エンジニアリング**

主要トピックス(重点化事業取組事例)

別荘地の総合防災マネジメント事業

民間企業が所有する別荘地
[6箇所:約2,000区画]
別荘地全体の防災点検、
修繕計画から設計・修繕
工事までをワンストップで
実施



防災



株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング

大型店舗・集客施設の開発事業

イオンモールの大型店舗の立地地区計画、測量、開発申請等を受注
設計・施工管理といった要素技術はもとより大型店舗等、商業施設の開発
に関わる事業のコーディネート、開発主体の組成、運営、プロパティマネジメ
ントに至るまでをトータルでサポート可能

民間開発



株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

ORICONSUL

主要トピックス(重点化事業取組事例)

カタール国マスタープランプロジェクト

非ODA

国際コンペに勝ち受注

国土全体レベルの総合開発計画と地域・都市レベルで、環境管理、総合交通インフラ、ユーティリティー整備などの開発計画策定



主要トピックス【海外】

アフリカにおける地域開発に向けた計画策定を支援

モザンビーク国のナカラ回廊地域における社会経済開発に資する
農業開発マスタープラン業務を受注

民間投資による持続的農業生産システムの推進や、小規模農家の
貧困削減の実現に向けた計画策定を支援

株式会社 **オリエンタルコンサルタンツ**
ORICONSUL

対象地域位置図



主要トピックス【海外】

LRT導入に関するPPP等事業化に向けた計画を検討

インド国(プネ市地域)におけるLRTシステムの導入に向け、PPP事業を想定した事業化に向けた基本事業計画策定業務を受注
このLRTシステム整備により、同地域の都市交通の改善及び環境配慮都市の開発を図り温室効果ガスの排出削減に寄与



LRT導入イメージ

(LRT導入なし)



(LRT導入あり)



主要トピックス【国内公共】

群馬県立敷島公園の指定管理者に選定

(株)オリエンタルコンサルタンツが代表を努める敷島パークマネジメントJV(4社)が群馬県立敷島公園の指定管理者として選定
敷島公園では、Jリーグやラジオ局等も含め、多様な市民を主体・主役とした公園の管理・運営を実施するとともに、タウンマネジメントの拠点として、地域活性化を推進



正田醤油スタジアム群馬

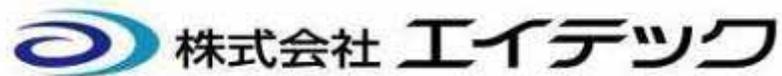


上毛新聞敷島球場

主要トピックス【国内公共】

東日本大震災による瓦礫処理事業を支援

宮城県石巻地区における災害廃棄物処理工事マネジメント業務について、施工計画の策定や施工管理等を支援



瓦礫処理の状況

主要トピックス【その他】

「2011 第17 回長崎市都市景観賞」を受賞

(株)オリエンタルコンサルタンツが緑地設計を行った長崎港松が枝国際ターミナルビルが「2011長崎市都市景観賞『大きな建物部門』」を受賞
長崎港松が枝国際ターミナルビルは、市民にとって景観条例がもたらす大景観の効用を実感できる場所として高く評価



ターミナル外観



ターミナル内緑地

主要トピックス【その他】

「均等・両立推進企業表彰」石川労働局長優良賞を受賞

(株)中央設計技術研究所は、平成23年度「均等・両立推進企業表彰」ファミリーフレンドリー企業部門 石川労働局長優良賞を受賞

(株)中央設計技術研究所では、育児・介護休業制度や勤務時間短縮等、働きながら育児・介護しやすい制度が充実している、と評価



表彰状



授賞式の様子

APPENDICES

- 連結決算詳細 -



連結貸借対照表

(単位:百万円)	前期		当期		増減額	
流動資産	19,364	(79.6%)	20,456	(81.3%)	1,092	・現金及び預金、 未成業務支出金 等増加が影響
固定資産	4,943	(20.4%)	4,657	(18.5%)	286	
資産合計	24,338	(100.0%)	25,134	(100.0%)	796	
流動負債	15,123	(62.1%)	17,529	(69.7%)	2,406	・受注高増加の影響により、未成業務受入金が増加
固定負債	4,129	(17.0%)	2,733	(10.8%)	1,396	
負債合計	19,253	(79.1%)	20,262	(80.6%)	1,009	
資本金	503	(2.1%)	503	(2.0%)	-	
資本剰余金	748	(3.1%)	748	(2.9%)	-	
利益剰余金	3,793	(15.6%)	3,555	(14.1%)	238	
少数株主持分	331	(1.4%)	339	(1.3%)	8	・四半期純損失を 計上し、利益剰余 金が減少
純資産合計	5,085	(20.9%)	4,871	(19.3%)	214	
負債・純資産 合計	24,338	(100.0%)	25,134	(100.0%)	796	

前期: 11/09期 第2四半期 当期: 12/09期 第2四半期

連結損益計算書

(百万円)

	前期		当期		増減額	
売上高	11,562	(100.0%)	12,896	(100.0%)	1,334	・前期下半期の受注高増加の影響
売上原価	9,304	(80.5%)	10,173	(78.8%)	896	
販売費・ 一般管理費	3,544	(30.6%)	3,497	(27.1%)	47	・原価率の改善および事務所拠点戦略の見直し等
営業損失	1,287	(11.1%)	774	(6.0%)	513	
経常損失	1,278	(11.0%)	725	(5.6%)	553	・円安による為替差益
四半期純損失	1,169	(10.1%)	423	(3.2%)	746	
受注高	16,069	-----	16,237	-----	168	・震災復興関連の受注増加

前期：11/09期 第2四半期 当期：12/09期 第2四半期

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	前期	当期	増減額	
営業活動による キャッシュフロー	1,264	700	1,964	・受注回復による入金増加 によりプラスへ転じる
投資活動による キャッシュフロー	148	235	87	
財務活動による キャッシュフロー	3,970	3,045	925	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	3,880	4,754	874	・営業キャッシュフローの改 善の影響により増加

前期：11/09期 第2四半期 当期：12/09期 第2四半期

指標関係(連結)

	単位	前期	当期
1株当たり当期純利益(EPS)	(円)	217.55	83.57
自己資本比率	(%)	19.5	18.0
自己資本純利益率(ROE)	(%)	23.6	9.1
総資産経常利益率(ROA)	(%)	5.3	2.9
株価純資産倍率(PBR)	(倍)	0.31	0.30

前期：11/09期 第2四半期 当期：12/09期 第2四半期

セグメント別売上高について

インフラマネジメント

環境マネジメント

その他

(百万円)



前期： 11/09期 第2四半期 当期： 12/09期 第2四半期

お問い合わせ先


銘柄略称: ACKG
証券コード: 2498



〒151-0071

東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館

TEL: 03-6311-6641 (代) FAX: 03-6311-6642

URL: <http://www.ack-g.com>

(銘柄略称: ACKG / 証券コード: 2498)

問合せ 経営管理本部 平山 光信

e-mail: ir-ackg@ack-g.com

本日はご多忙の中、
弊社の決算説明会にご来場いただき、
誠にありがとうございました。

